

千葉県八千代市

白幡前遺跡 n 地点

－住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

令和6年度

株式会社 V I S I O
八千代市教育委員会

例 言

1. 本書は、八千代市教育委員会が令和6年度民間開発等埋蔵文化財発掘調査事業として実施した発掘調査の報告書である。
2. 本書に収録した発掘調査は住宅建設に伴うもので、事業者である株式会社VISIOの委託を受けて実施した。
3. 遺跡名は、白幡前遺跡。所在地は千葉県八千代市萱田字上ノ台2079番ほかである。
4. 調査及び整理は、以下のとおり実施した。

確認調査	期間	令和6年7月17日～令和6年7月26日	面積	52㎡/447㎡
本調査	期間	令和6年9月13日～令和6年11月6日	面積	165㎡
本整理	期間	令和6年11月27日～令和7年3月31日		
5. 遺構No.は、数字と記号（アルファベット）の組み合わせで標記した。記号は以下のとおりである。
竪穴建物跡 D ビット P 溝跡 M かく乱 K
6. 遺構・遺物の縮尺は、原則として下記のとおりである。
[遺構] 竪穴建物跡 1/80 溝跡 1/100 ビット 1/40 [遺物] 土器 1/4 拓本 1/4
7. 遺物実測図中の断面黒塗りは須恵器を表し、中軸線の両脇の空きは、復元実測を表す。
8. 参考文献は第3章末にある。
9. 出土した遺物のほか、写真・図版等の調査資料は八千代市教育委員会が保管している。
10. 本書の整理作業者は下記のとおりである。
遺物の撮影、執筆・編集：川名瑞希 遺物接合：合力有未、酒井公美子、成川希美
遺物図版作成：小弓場直子 遺構・遺物トレース：伊藤衣莉加

目 次

第1章 調査経過及び概要	第3章 成果と課題
第1節 調査に至る経緯	写真図版
第2節 白幡前遺跡の概要	報告書抄録
第2章 検出された遺構と遺物	
第1節 奈良・平安時代	
第2節 近世以降	

挿 図 目 次

第1図 白幡前遺跡の各調査地点	第8図 01D住居跡出土遺物実測図
第2図 白幡前遺跡と周辺の遺跡	第9図 02D住居跡実測図
第3図 白幡前遺跡 n 地点確認調査結果	第10図 02Dかまと跡実測図
第4図 白幡前遺跡 n 地点本調査遺構配置図	第11図 02D住居跡出土遺物実測図
	第12図 01P, 02P実測図
第5図 01D住居跡実測図	第13図 01M実測図
第6図 01Dかまと跡実測図	第14図 白幡前遺跡 c 地点及び n 地点調査結果
第7図 01D炭化物出土状況実測図	

表 目 次

第1表 白幡前遺跡の各地点調査結果	第3表 02D住居跡出土遺物観察表
第2表 01D住居跡出土遺物観察表	

第1章 調査経過及び概要

第1節 調査に至る経緯

令和6年7月、株式会社VISIO（以下「事業者」という。）から萱田字上ノ台の建売住宅建設事業に係る「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の依頼が提出された。確認地は周知の埋蔵文化財包蔵地内であり、隣接地では白幡前遺跡c地点の調査で多数の遺構が確認されていた。現況荒蕪地で遺物の散布もみられた。このため、八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）は、周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、「文化財保護法第93条に基づく届出が必要であること」と「その取扱いについて協議が必要であること」を回答し、合計447㎡について取扱いに係る協議を行った。

確認調査 令和6年7月2日付で事業者から土木工事の届が提出され、市教委は7月17日に確認調査を開始した。確認調査は、令和6年度の市内遺跡調査事業として国費及び県費の補助を受けて、7月26日まで行った。対象面積447㎡のうち52㎡を調査し、その結果、奈良・平安時代のビット、近世以降の溝跡を検出した。

本調査 確認調査の結果、165㎡について協議範囲とした。協議を重ねた結果、本調査を実施することとなった。市教委は、令和6年8月14日付けで調査の見積りを事業者に提示し、事業者から同年8月23日付けで八千代市長（以下「市」という。）に調査依頼書が提出された。市は8月28日付けでこれを受託し、165㎡について記録保存のための発掘調査を実施することを取り決めた。さらに8月30日付けで市と事業者間で委託契約を締結し、9月13日に本調査を開始した。

本調査は、165㎡を対象として行った。調査区域は北緯・東経に従い5mごとのグリッドを設定した。重機による表土除去後、精査を行い遺構を検出した。遺構ごとに人力で掘削し、適宜写真撮影と図面作成、光波測距儀によって記録をとりながら完掘をめざした。調査経過は、9月13日機材搬入、環境整備。17日～18日重機による表土除去。20、24日遺構検出のための精査。24日基準点測量、杭打ち（委託作業）。25日～10月25日遺構調査。11月5日～6日重機による埋め戻し、機材撤収で調査を終了した。

第2節 白幡前遺跡の概要

遺跡の立地 白幡前遺跡は、市域の南部中央、ゆりのき台及び萱田地区にある。新川の西岸に位置し、南北を寺谷津、池ノ谷津という2本の谷津に挟まれた河岸段丘上にある。標高は12～24m。

これまでの調査 昭和50（1975）年11月～12月に萱田地区特定土地区画整理事業の一環として遺跡分布調査が財団法人千葉県文化財センター（現公益財団法人千葉県教育振興財団。以下「文化財センター」という。）によって実施され、分布状況が確認された。これにより昭和54（1979）年には、現在のゆりのき台の一角が萱田遺跡として認識された。なお、昭和58（1983）年時点では、現在の白幡前遺跡の内、八千代警察署前から飯綱神社方面に走る「権現道」の西側を白幡前遺跡、東側を上ノ台遺跡と分割していたが、平成9（1997）年の埋蔵文化財分布地図改訂に伴い統合された。

昭和54年8月から昭和63（1988）年9月まで、萱田地区特定土地区画整理事業の実施に伴い、白幡前遺跡の94,026㎡について文化財センターが発掘調査を行った。その結果、縄文時代を除く旧石器時代～奈良・平安時代の遺構・遺物が数多く検出され、特に奈良・平安時代は堅穴建物跡279軒、掘立柱建物跡150棟、墨書土器や瓦塔など豊富な成果が得られた。墨書土器には、人面と「土部人足召口」という文字が書かれたロクロ成形の土師器小型甕があり、八千代市指定文化財となっている。

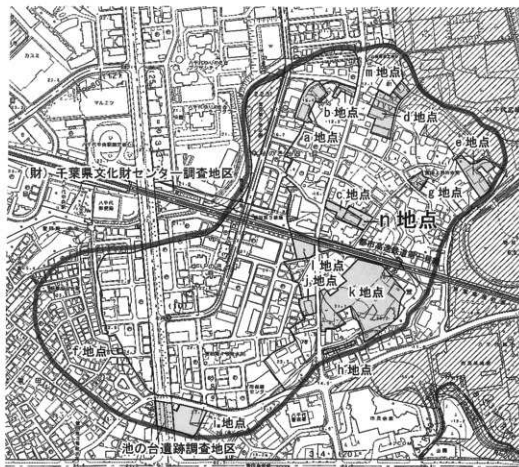
また、平成2（1990）年12月～翌年8月に東葉高速鉄道の建設に伴い、1,935㎡が文化財センターによって調査され、奈良・平安時代の堅穴建物跡17軒などが検出された。

その後、市教委により14地点の調査を行い、そのうち8地点で本調査を行った。本調査を実施した各地点の調査結果は表1の通りである。また、昭和60（1985）年に池の台遺跡調査が白幡前遺跡にまたがって行われ、白幡前遺跡側では奈良・平安時代の堅穴建物跡2棟と溝跡1条が確認されている。

第1表 白幡前遺跡の各地点調査結果

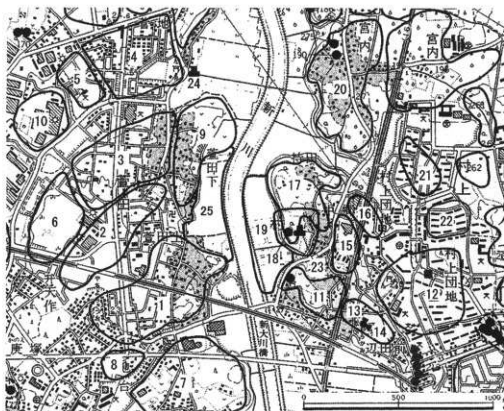
地点	実施年	主な遺構	主な遺物
a	平成13年 (2001)	奈良・平安時代堅穴建物跡19軒、掘立柱建物跡6棟、土坑31基など	縄文土器、弥生土器、平安時代土師器、須恵器、施釉陶器
c	平成20年 (2008)	奈良・平安時代堅穴建物跡4軒、土坑12基、溝跡1条、近世溝跡1条、土坑1基、近・現代溝跡2条	奈良・平安時代土師器、須恵器、埴羽II、土器片・門盤、支脚、釘、鉄鏃、鉄滓、貝、陶器、馬骨
d	平成25年 (2012)	縄文時代の堅穴建物跡1軒、古墳時代堅穴建物跡2棟、奈良・平安時代溝跡1条、ピット4基、古墳時代～奈良・平安時代ピット12基	縄文土器、土師器、須恵器、土製品、石器、石製模造品、貝
e	平成26年 (2013)	中・近世掘立柱建物跡1棟、ピット214基、台地整形区画1基、溝跡12条、ピット列2基、粘土貼りつけ遺構1基	中近世陶磁器類、土器、石製品、金属器、漆製品、木製品、須恵器、土師器
h	平成31年 (2019)	縄文時代堅穴建物跡1棟、古墳時代堅穴建物跡2棟、奈良・平安時代溝跡1条、中近世土坑2基など	縄文土器、古墳時代土師器、石製模造品、奈良・平安時代土師器、須恵器
i	令和3年 (2021)	縄文時代陥穴4基、弥生時代堅穴建物跡1棟、奈良・平安時代の土坑7基、溝跡4条など	縄文土器、奈良・平安時代土師器、須恵器
k	令和6年 (2024)	縄文時代の陥穴1基、古墳時代堅穴建物跡3棟、遺構3基、奈良・平安時代の堅穴建物跡3棟、土坑9基、中・近世土坑1基、溝跡3条	古墳時代土師器、奈良・平安時代土師器、須恵器、砥石、鉄製品、ミニチュア土器
n	令和6年 (2024)	奈良・平安時代堅穴建物跡2棟、ピット2基、近世以降溝跡1条	奈良・平安時代土師器、須恵器

周辺の遺跡 黄田地区特定土地区画整理事業に伴う大規模調査では、本遺跡のほか北に所在する権現後遺跡・ヲサル山遺跡・北海道遺跡・坊山遺跡・井戸向遺跡が調査され、旧石器時代から中世に至る遺構・遺物が多数確認されている。本遺跡の南には、弥生時代後期～古墳時代中期を主体とする川崎山遺跡があり、東方の新川を隔てた村上地区には、村上込の内遺跡や浅間内遺跡を始めとする村上地区遺跡群が所在する。新川上流及び辺田前・沖塚前低地にのぞむこの一帯は、遺跡の密集地帯として認識される。



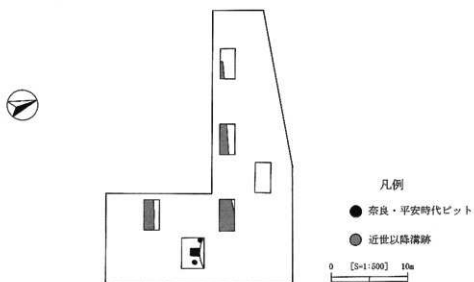
第1図 白幡前遺跡の各調査地点

[S=1:6000]

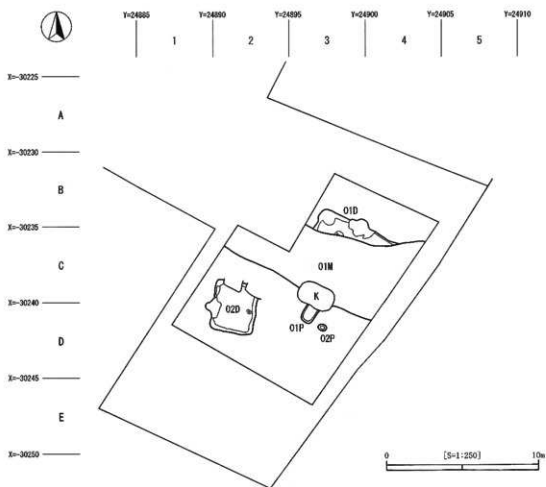


第2図 白幡前遺跡と周辺の遺跡

- 1 白幡前遺跡
- 2 井戸向遺跡
- 3 北海道遺跡
- 4 権現後遺跡
- 5 ラサル山遺跡
- 6 坊山遺跡
- 7 川崎山遺跡
- 8 池の台遺跡
- 9 南海道遺跡
- 10 ラサル山南遺跡
- 11 浅間内遺跡
- 12 村上込の内遺跡
- 13 八筋遺跡
- 14 根上神社古墳
- 15 殿内遺跡
- 16 堀作遺跡
- 17 持田遺跡
- 18 正覚院塚
- 19 浅間下遺跡
- 20 村上宮内遺跡
- 21 村上向原遺跡
- 22 名主山遺跡
- 23 正覚院館跡
- 24 飯綱砦跡遺跡
- 25 志津根遺跡



第3図 白幡前遺跡n地点確認調査結果



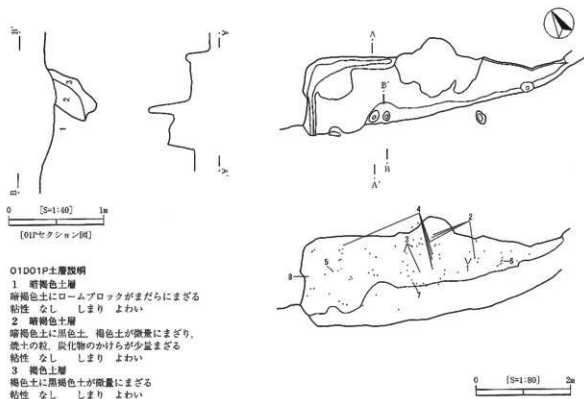
第4図 白幡前遺跡n地点本調査構配置図

第2章 検出された遺構と遺物

白幡前遺跡n地点においては奈良・平安時代の堅穴建物跡2棟、ピット2基、近世以降の溝1条を検出した。以下、詳細について記述する。

第1節 奈良・平安時代

1. 01D



第5図 01D住居跡実測図

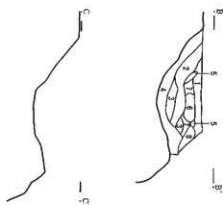
位置 調査区北東側 B-3G, C-3G, D-3Gに位置する。

形状・規模 5.5m規模の方形の堅穴建物跡と推測される。深さは0.4m。底面はロームでほぼ平坦であるが、北西の周溝部になだらかなくほみがある。床面にピット1基、0.1Mに削られた部分にピットの痕跡2基を検出した。壁面もロームでほぼ垂直に立ち上がる。北壁でかまどを検出した。南側の大部分を0.1Mに切られ、1/3残存。

覆土堆積状況 遺存状況が悪く、住居全体の堆積状況は不明であった。覆土内に多くの炭化物・焼土を検出した。

出土遺物 土師器片、須恵器片を中心に総数582点出土。かまど内に特に多く残る。0.1Mへの流入もみられた。墨書土器は2点出土し、うち1点の土師器坏は「丁」と判読できた。出土遺物の内、土師器坏4点、土師器甕1点、土師器小型甕1点、須恵器甕1点、鉄製品2点を図示した。

所見 炭化物や焼土、遺物の出土状況から放棄の際に燃やされた焼失住居と考えられる。



O1Dかまど土層説明

1 暗褐色土層

暗褐色土に黒色土、焼土の赤色土、炭化物が少量まざる
粘性 なし しまり よわい

2 暗褐色土層

暗褐色土に焼土の赤色土、黒色土がまだらにまざる
粘性 非常によわい しまり よわい

3 暗赤褐色土層

暗赤褐色土に黒褐色土がまだらにまざる
粘性 よわい しまり よわい

4 暗褐色土層

暗褐色土に粘土質の土が多量にまざる。炭化物、焼土も微量にまざる
粘性 よわい しまり よわい

5 粘土層

粘土質の土。カマド天井の一部か
粘性 つよい しまり よわい

6 暗褐色土層

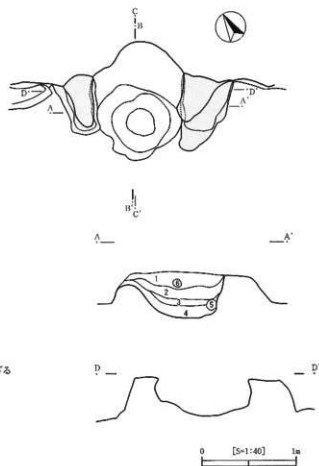
暗褐色土に粘土質の土の塊と焼土の赤色土がまだらにまざる
粘性 よわい しまり よわい

7 暗褐色土層

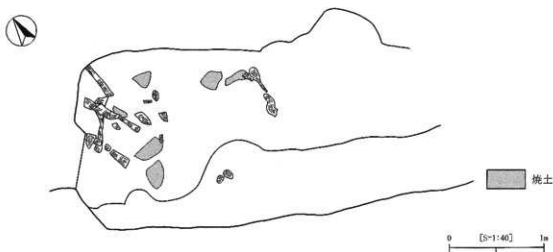
暗褐色土に粘土質の土、焼土の赤色土、炭化物が少量まざる
粘性 よわい しまり よわい

8 暗褐色土層

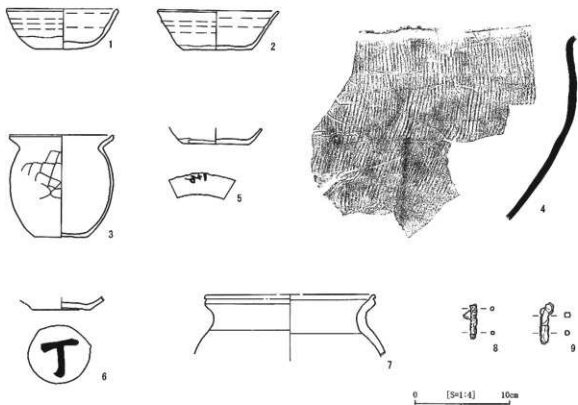
暗褐色土と粘土質の土が同比率程度でまざり、焼土の粒、炭化物の
かけらがまざる
粘性 よわい しまり よわい



第6図 O1Dかまど跡実測図



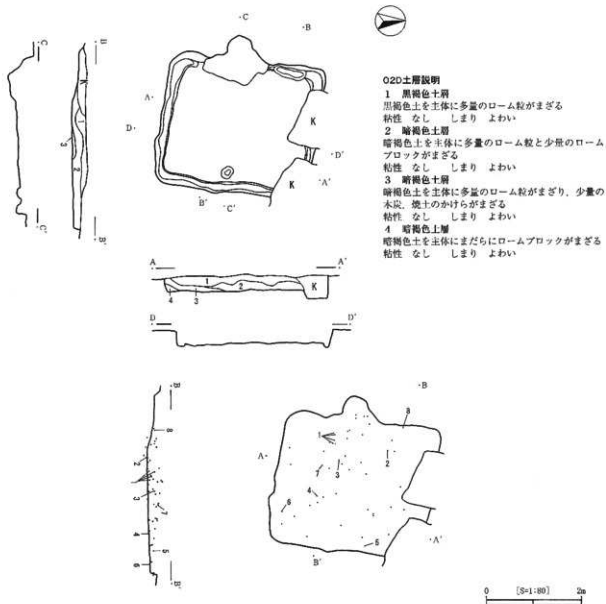
第7図 O1D炭化物出土状況実測図



第8図 O1D住居跡出土遺物実測図

第2表 O1D住居跡出土遺物観察表

No.	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○焼成 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
1	土師器 杯	完形	口径12.9 底径7.3 高さ4.2	○褐色粒子 ○良 ●黒色、暗褐色	ロクロ成形。体部下端へら削り。 底部へら切り	
2	土師器 杯	口～底部	口径11.9 底径6.2 高さ4.3	○雲母細片 ○良 ●淡橙褐色	ロクロ成形。体部下端へら削り。 底部へら切り	
3	土師器 小型甕	口～底部	口径10.9 底径6 高さ10.8	○雲母細片 ○普通 ●暗赤褐色	口縁部ナデ。胴部へら削り。底部 へら切り	
4	須恵器 甕	胴部	残存高19.5	○良 ●暗赤褐色、黒褐色	胴部叩き目	
5	土師器 杯	底部小片	(底径7) 残存高2	○良 ●淡橙褐色	底部回転糸切りののち周縁へら削り。 体部下端へら削り。墨書あり	
6	土師器 杯	底部	底径6.2 残存高1.4	○雲母細片 ○良 ●淡橙褐色	底部回転糸切りののち周縁へら削り。 墨書「丁」あり	
7	土師器 甕	口～胴部	(口径18) 残存高6.5	○良 ●表:灰褐色 裏:橙褐色、 黒褐色	口縁部ナデ。口唇部つまみ上げ。 底部へら削り	常総窯
8	鉄製品 不明	不明			芯部に細い鉄線が巻き付く	
9	鉄製品 釘	両端欠損				



第9図 O2D住居跡実測図

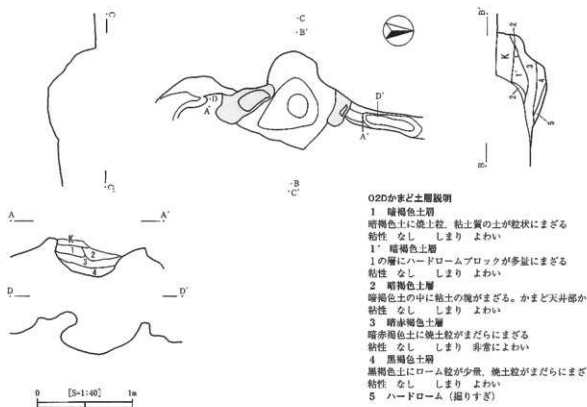
位置 調査区南西側 C-2, D-2 Gに位置する。

形状・規模 3m規模の方形の竪穴建物跡と推測される。深さは0.3m。底面はロームでほぼ平坦で、壁溝がかまどを除きほぼ全周する。床面東側、北西部の壁際にピットが計2基。壁面もロームでほぼ垂直に立ち上がる。西壁でかまどを検出したが、遺構西側の上層20cmが攪乱に削られていたため、遺存状況は良くない。遺構北側を2つの攪乱に切れ、3/4残存。

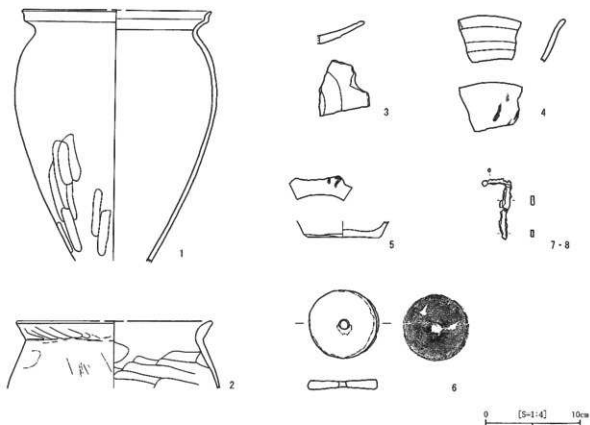
覆土堆積状況 4層に分層した。おおむね自然堆積による埋没が想定される。

出土遺物 土師器片、須恵器片を中心に295点出土。かまど周辺に多く検出。墨書土器は2点出土した。

出土遺物の内、土師器坏2点、土師器甕2点、土師器皿1点、土師器紡錘車1点、鉄製品2点を図示した。



第10図 O2Dかまど跡実測図

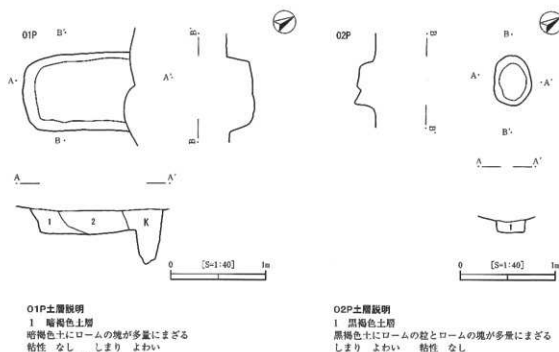


第11図 O2D住居跡出土遺物実測図

第3表 02D住居跡出土遺物観察表

No.	器形	状態・部位	計測値(cm)	○胎土 ○焼成 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
1	土師器 甕	口～胴部	(口径19.8) 残存高26.5	○石英、長石、雲母細片 ○普通 ●暗褐色、橙褐色	口縁部ナデ、口唇部つまみ上げ、 胴部徒位ヘラ削り	常総甕
2	土師器 甕	口～頸部	(口径20.4) 残存高7	○良 ●暗褐色、黒褐色、褐色	口唇部ナデののちヘラ削り	
3	土師器 皿	口縁部小片		○良 ●淡橙褐色	ロクロ成形、体部ヘラ削り	
4	土師器 坏	口縁部小片		○良 ●褐色	ロクロ成形、体部内面みがき、墨 書あり	
5	土師器 坏	底部小片	(底径7.4) 残存高1.7	○良 ●表：淡褐色、裏：灰褐 色	回転糸切り、体部下端ヘラ削り、 墨書あり	
6	土製品 紡錘車	紡輪	径7.3 孔径1	○良 ●実測面：淡橙褐色、裏 面：黒褐色	縁辺部削り、片面に回転糸切り痕、 中央穿孔	坏底部の 転用か
7	鉄製品 釘	先端欠損				
8	鉄製品 釘	先端欠損				

3. ビット



第12図 01P, 02P実測図

01P

位置 D-3 G 平面形態 方形 底面形態 隅丸方形, 平坦。北側一部を擾乱に切られる。規模 (cm) 116×79, 深さ30 出土遺物 3点

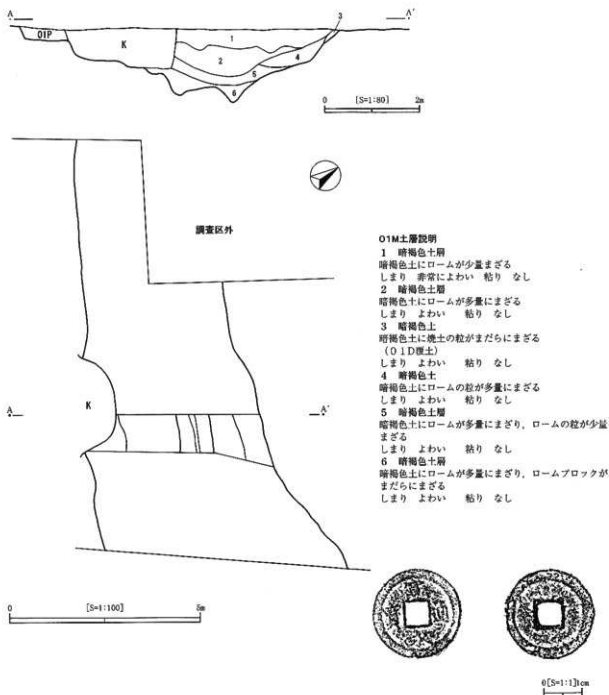
02P

位置 D-3 G 平面形態 楕円形 底面形態 不整形, 凹凸あり 規模 (cm) 30×50, 深さ20 出土遺物 なし (確認調査時に2点検出)

第2節 近世以降

01M

位置 調査区中央部を東西に横断し、01Dを切る。形状・規模(m) 幅 上面4.5、底面14.4、深さ1.7。
 溝底に凹凸あり、V字のくぼみが走る。V字のくぼみ 幅 上面0.7、底面0.1 特記事項 位置等から白
 幡前遺跡c地点における03Mと同一の、近世以降の溝跡と判断した。出土遺物 奈良・平安時代土師器・
 須恵器を含む土器片208点出土。近世の遺物として銭貨(寛永通寶)を図示した。



第13図 01M実測図

第3章 成果と課題

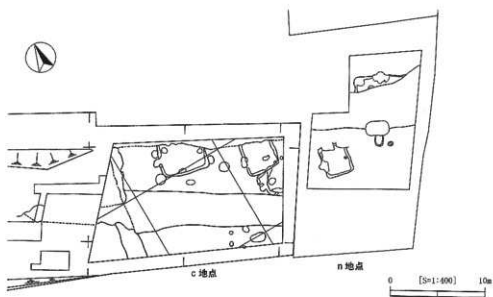
今回の調査により、奈良・平安時代の竪穴建物跡2棟、溝1条、ピット2基、近世以降溝跡1条を検出した。また、調査地は白幡前遺跡c地点に隣接する場所であり、c地点で調査された内容に新たな情報を加えることができた。

住居跡は出土遺物、c地点での調査結果等から、01Dが藤岡孝司氏の「萱田編年」における萱田Ⅳ～Ⅴ期、02Dが萱田Ⅴ～Ⅵ期と判断した。墨書土器で明瞭なものは01Dにおける「丁」の土師器坏のみであったが、「丁」の墨書がある土師器坏はc地点の1D住居跡でも確認されており、一定の規格として使用されていたものと想定できる。

皿が出土している02Dは、同じく皿が複数検出されているc地点の2D住居跡（萱田Ⅶ～Ⅷ期）に近い時期の住居跡であると考えられる。c地点2D住居跡は小鍛冶の工房跡の可能性があるとされていたが、今回の調査では鉄滓等の遺物は検出されなかった。

01Mについてはc地点の03Mと同様に、現在の地境に一致した状態で続いていた。断面は今回の調査で明らかにすることができ、幅4m、深さ1.7mと大規模な溝であった。

c地点とn地点の結果を合わせると、狭い範囲に多くの遺構が検出されていることがわかる。当地周辺は遺構の密集地として、今後も注意深く調査を行っていく必要がある。



第14図 白幡前遺跡c地点及びn地点調査結果

参考文献

- 藤岡孝司（1990年）「八千代市萱田地区遺跡群の歴史時代土器」、『研究連絡誌』30
- 八千代市史編さん委員会（1978年）『八千代市の歴史』
- 財団法人千葉県文化財センター（1991年）『八千代市白幡前遺跡』
- 財団法人千葉県文化財センター（1994年）『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡』
- 八千代市教育委員会（2009年）『千葉県八千代市白幡前遺跡c地点』
- 八千代市教育委員会（2023年）『千葉県八千代市白幡前遺跡i地点』

図版 1



調査地完掘全景



01D遺物出土状況



01D炭化物出土状況



01Dかまどセクション面



01Dかまど遺物出土状況



01Dかまど完掘



01D01Pセクション面



01D完掘



02D遺物出土状況



02D遺物出土状況



02D遺物出土状況



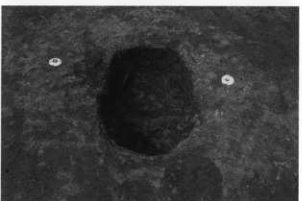
02Dかまど完掘



02D完掘



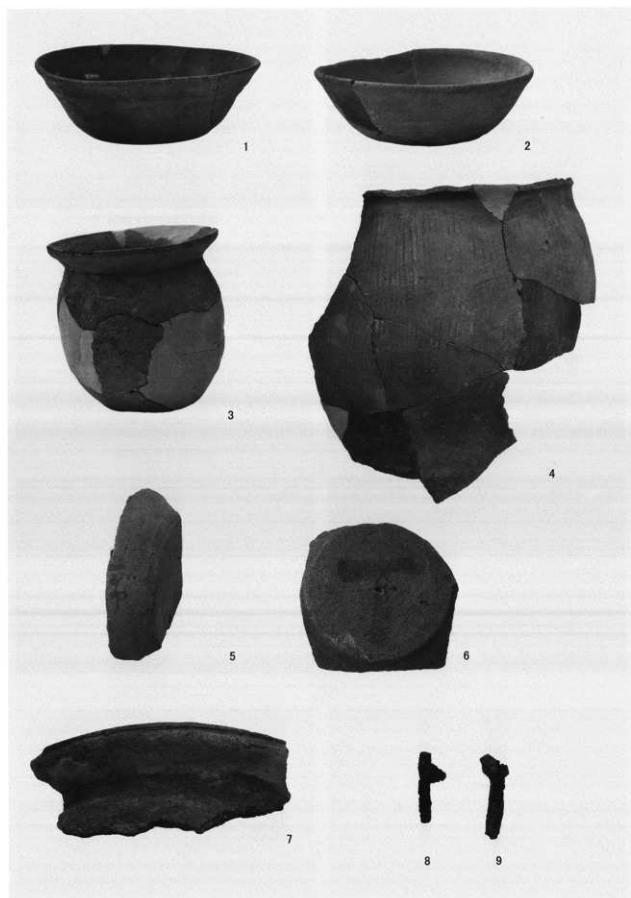
01P



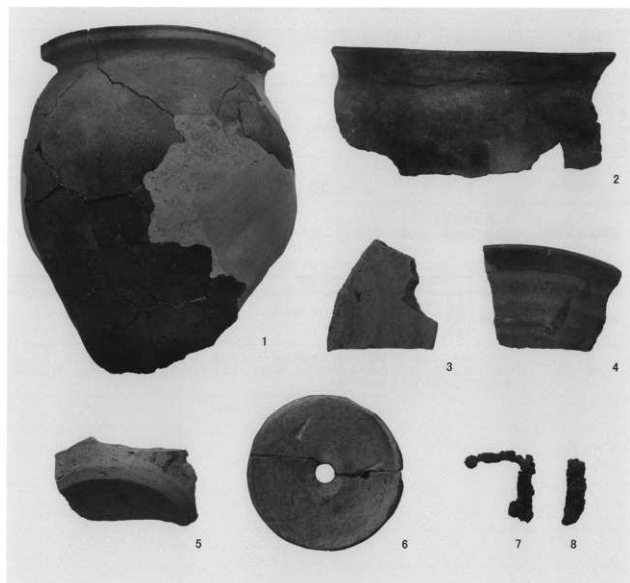
02P



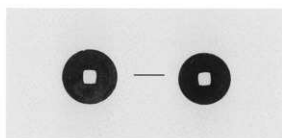
01Mセクション面



01D出土遺物



0 2 D出土遺物



0 1 M出土遺物 (寛永通宝)

報告書抄録

ふりがな	ちばげんやちし しらはまいいせきえぬちでん							
書 名	千葉県八千代市 白幡前道跡 n 地点							
副 書 名	住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編 著 者 名	川名瑞希							
編 集 機 関	八千代市教育局委員会							
所 在 地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138番地2 TEL 047(483)1151代表							
発行年月日	2025年 3月31日							
ふりがな 所収道跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村 道跡 番号		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
しらばなまいいせきえぬちでん 白幡前道跡 n 地点	ちばげんやちし 八千代市萱田字上ノ台 1079番、1080番、1081番、 1082番	12221	185	35度 43分 28秒	140度 6分 30秒	2024/09/13 ～ 2025/03/31	165	住宅建設
所収道跡名	種別	主な遺構			主な遺物		特記事項	
白幡前道跡 n 地点	集落跡	奈良・平安時代 近世以降 竪穴建物跡2棟、ピット2基 溝跡1条			奈良・平安時代土師器・須恵器			
要 約	今回の調査では奈良・平安時代の竪穴建物跡2棟、ピット2基、近世以降溝跡1条を検出した。また、調査地は白幡前道跡と地点に隣接する場所であり、関連性があると思われる遺構や遺物もみられ、周辺の調査結果に新たな情報を加えることができた。							

千葉県八千代市 白幡前遺跡 n 地点
—住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発 行 日	令和 7 年 3 月 31 日
編 集	八千代市教育委員会 文化・スポーツ課 〒 276-0045 八千代市大和田 138-2 TEL 047-481-0304
発 行	株式会社 VISIO
印 刷	金子印刷企画 千葉県八千代市堂田 410-1
